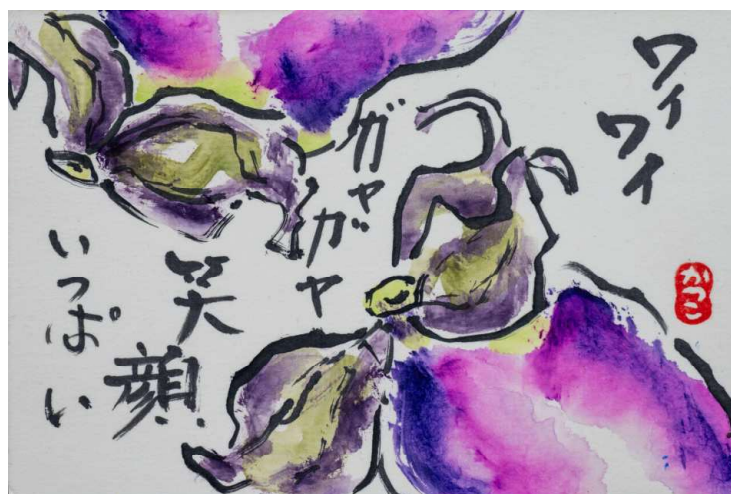


第2章

計画策定の方法

本計画では、地域福祉推進の主体たる市民、団体などの参加を得ながら、地域のさまざまな生活課題を明らかにし、その解決に向けた取り組みを検討していく必要があります。第2章では、計画策定にあたり実施した調査や市民参加による意見・討議の方法について概要をまとめます。

- 1 計画の策定体制
- 2 市民意識調査の実施概要
- 3 分野別課題調査の実施概要
- 4 福祉を考える会の実施概要
- 5 中学生・高校生の参画



作品名「絵手紙」

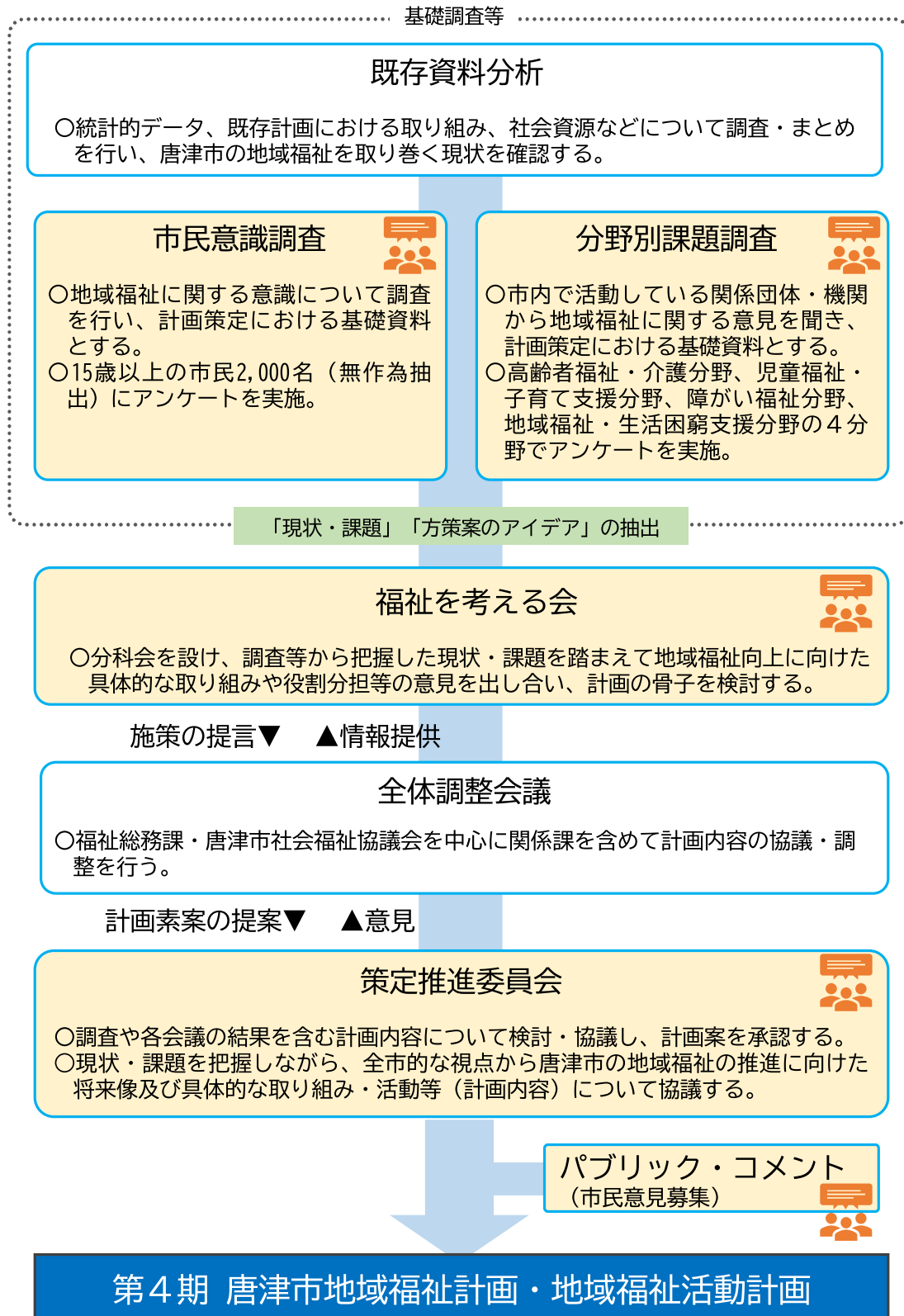
上野 勝子 さん


【作品の紹介】

老人クラブの活動にも参加しはじめ「わきあいあい」と楽しみたいという想いで制作しました。

1 計画の策定体制

本計画は以下のような体制で策定を行いました。



 = 市民の参画

2 市民意識調査の実施概要

(1) 調査の目的

本計画の策定にあたり、市内にお住まいの方々の地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、市民の方々のご意見やご提言を計画に反映していくことを目的に実施しました。

(2) 調査の概要

- 調査地域：唐津市全域
- 調査対象：市内にお住まいの15歳以上の方から無作為に抽出した2,000名
- 調査時期：令和4年8月23日～9月12日
- 調査方法：郵送配付・回収
- 配付・回収状況¹

| 配付数 (A) | 回収数 (B) | 回収率 (B/A) |
|---------|---------|-----------|
| 2,000 票 | 657 票 | 32.9% |

(3) 主な質問内容

- ご自身について
年齢・性別・居住年数・居住地区、等
- 「福祉」について
「福祉」とは何だと思うか、関心があるか、どのような分野に関心があるか、サービスに関する情報の入手先、等
- 「地域」との関わりや生活について
現在の地区での居住継続意向とその理由、ご近所とのおつきあい、地域活動への参加経験、ボランティア団体等への所属、不安なこと・悩みごと、相談相手、等
- 災害時の状況について
避難場所の認知、災害発生時の困りごと、避難行動要支援者の制度について、等
- これからの唐津市の福祉について
どのようなことが重要か、唐津市をどのような福祉のまちにしたいか、等
- 誰もが住みやすいまちづくりを進めていくための意見や要望

¹ 本調査は15歳以上の市民から無作為にサンプル(標本)を抽出し、全体の性質や傾向を推定するサンプル調査(標本調査)であるため、誤差を伴うことは避けられません。母集団(15歳以上の市民)100,957人(令和2年国勢調査)に対し、統計学上で一般的に使用される条件(信頼度95%、標準誤差5%)で必要な回答数は372票となり、この標本数を得ることができれば調査結果は信頼できる(統計学上、十分意味あり)とみなすことができます。今回の回収数は657票でこれを超えており、有効な調査になっているといえます。

3 分野別課題調査の実施概要

(1) 調査の目的

本計画の策定にあたり、市内で活動している関係団体・機関の方々から地域福祉に関する意見や活動の中で把握している課題、課題に対する方策案（解決策）のアイデアをお聞きし、計画に反映していくことを目的に実施しました。

(2) 調査の概要

- 調査地域：唐津市全域
- 調査対象：市内で地域福祉分野等において活動を行う関係団体・機関
 - 高齢者福祉・介護分野（福祉施設、福祉事業者、老人クラブなど）
 - 児童福祉・子育て支援分野（幼児期の教育・保育施設、児童センター、放課後児童クラブ、子ども食堂、子どもの居場所など）
 - 障がい福祉分野（福祉団体、福祉施設、ボランティアなど）
 - 地域福祉・生活困窮者支援分野（民生・児童委員、婦人会、地区社会福祉協議会など）
- 調査時期：令和4年8月23日～9月12日
- 調査方法：郵送配付・回収
- 配付・回収状況

| 分野 | 配付数 (A) | 回収数 (B) | 回収率 (B/A) |
|----------------|---------|---------|-----------|
| 高齢者福祉・介護分野 | 19 件 | 15 件 | 78.9% |
| 児童福祉・子育て支援分野 | 38 件 | 19 件 | 50.0% |
| 障がい福祉分野 | 21 件 | 12 件 | 57.1% |
| 地域福祉・生活困窮者支援分野 | 52 件 | 33 件 | 63.5% |
| 合計 | 130 件 | 79 件 | 60.8% |

(3) 主な質問内容

- 唐津市全体のそれぞれの取り組みがこの5年間で充実したと思うか
- 地域の福祉課題についての他団体・機関との情報のやり取り
- 地域の様子をみていて課題と思うこと、考えられる解決策
- 業務・活動における新型コロナウイルス感染症の影響
- 唐津市地域福祉計画に対する意見、要望

4 福祉を考える会の実施概要

(1) 実施の目的

グループワークを取り入れながら、現状や課題から、取り組み内容を整理し、解決に向けた検討を中心に作業を進め、市民参画による計画策定を実践することを目的に実施しました。

(2) 実施期間・回数

- ・令和5年4月～7月
- ・全5回

(3) 参加者

- | | |
|------------------|----------------|
| ① 市内で福祉活動を行っている者 | ② 福祉事業関係者 |
| ③ 福祉団体関係者 | ④ 保健医療関係者 |
| ⑤ サービス事業者 | ⑥ 市及び関係行政機関の職員 |

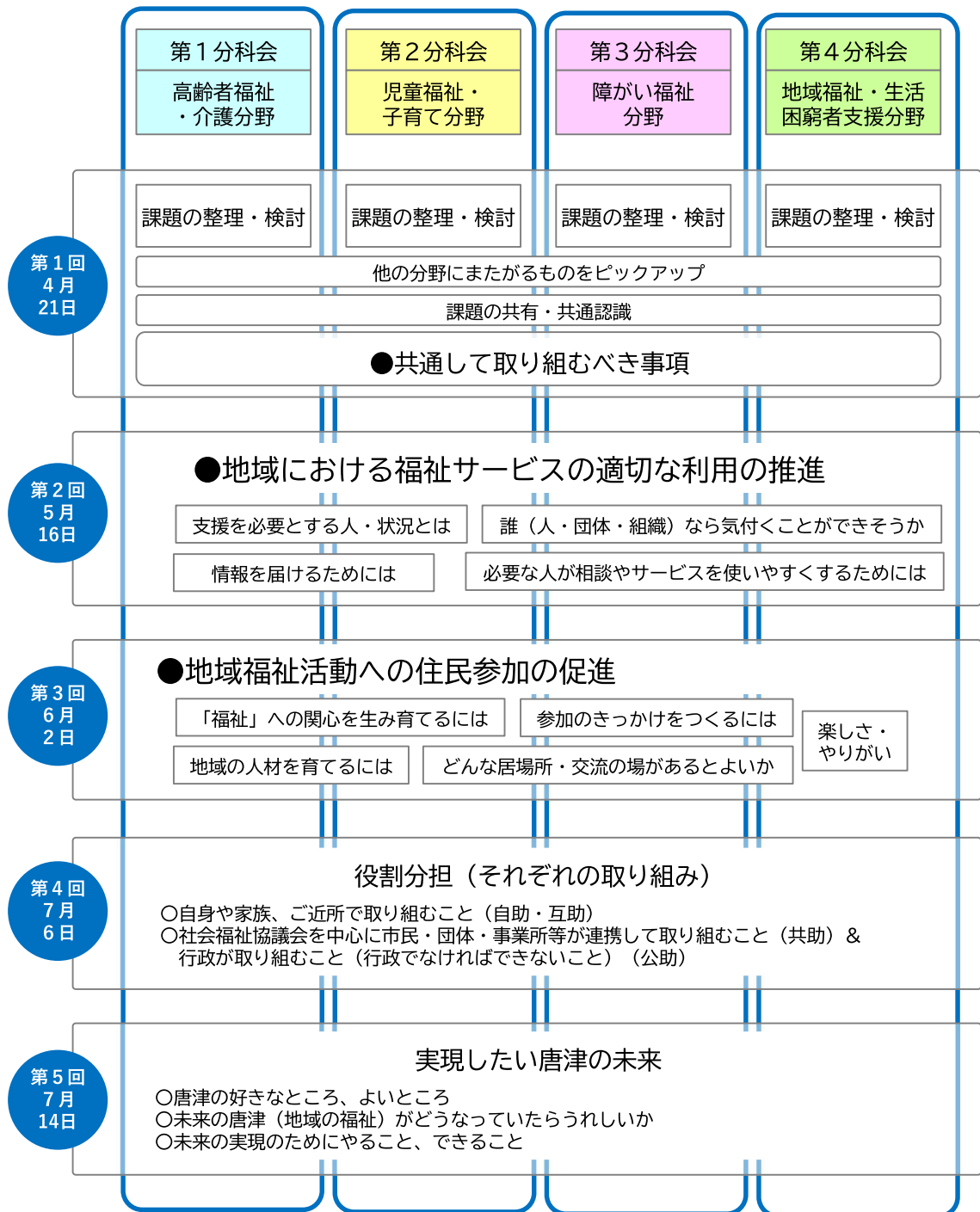
(4) 分科会の編成

開催にあたっては、「高齢者福祉・介護分野」「児童福祉・子育て支援分野」「障がい福祉分野」「地域福祉・生活困窮者支援分野」の4つの分野に分かれ、分科会を設置しました。4分科会の分野は、社会福祉法第107条第1項各号に掲げる地域福祉の推進に関する事項（地域福祉計画に盛り込むべき事項）に沿ったものとなっています。

なお、福祉の分野をまたがる課題を検討したり、異なる分野の人と話をしたり意見を出し合えるように、他の分科会のテーブルに移動して話し合う機会を多く設けました。



(5) 全5回の主な内容



※図中の●は法第107条に示されている「計画に盛り込むべき事項」

5 中学生・高校生の参画

(1) 実施の目的

人口減少、特に若者の減少がもたらす影響は将来の福祉制度の根幹に大きな影響を与える課題であることから、未来の唐津を支える中学生や高校生の意見を本計画に取り入れ、包摂的な地域社会の実現に向けた一歩とするために実施しました。

(2) 実施の概要

市長、副市長と地域福祉計画・地域福祉活動計画策定推進委員を聞き手とする対談方式で、本計画の基本理念をベースにテーマを設定し、自由に意見を出してもらいました。

なお、その様子は本計画の巻頭に特集記事として、また、意見交換や事前アンケートなどで出された中高校生の意見は、本計画の該当ページに「中高校生の声」として掲載しています。

(3) 参加者

① 市内在住の中学生

第一中学校3年 おりた きよあつ 折田 清篤 さん

湊中学校3年 こばやし ゆうた 小林 祐太 さん

鬼塚中学校2年 やまくち しゅう 山口 柊 さん

② 市内在住の高校生

唐津工業高校3年 たけなが みづき 竹永 望稀 さん

唐津東高校2年 えぐち さや 江口 紗也 さん

唐津東高校1年 まきやま あいな 牧山 愛奈 さん

唐津南高校1年 みね はるか 峰 陽花 さん

③ 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定推進委員

いだ もとき 井田 基貴 さん
やまくち 山口 ひろみ さん

④ 唐津市長 峰 達郎

唐津市副市長 脇山 秀明



